

## 8 海外留学および留学生の受入

### (1) 今年度の海外留学（交換留学）の状況

平成30(2018)年8月から令和元(2019)年の6月までドイツからのAFS留学生1名を受入れた。前半は高校1年生に所属し、後半の4月からは2学年に所属した。部活動はSGHクラブ・ディベート班に所属し、活躍した。茶道部にも参加し、日本文化を学んだ。また、本人は高校1年に向けて、ドイツの文化や歴史などの話を日本語と英語で紹介した。本人はNHKの取材を受けており、平成31(2019)年4月「Cool Japan」に出演した。さらに、AFSによるロシアからの留学生1名を令和元(2019)年10月7日より11月1日の約1か月間受け入れた。日本文化にとっても興味を持っており、大学では東洋史を専門に学びたいということで、日本語の授業に熱心に参加していた。

他に2年生1名が現在アメリカへ留学中である。留学する生徒が劇的に増えているわけではないが、アンケートなどから留学に行きたいと思う生徒は確実に増加している。

### (2) トビタテ！留学 JAPAN の応募

昨年度に続き、本校二年生の2名が、2019年度官民協働海外留学支援制度「トビタテ！留学 JAPAN」の派遣留学生に採用され、1名は7月28日から8月13日までの17日間、オーストラリアに短期留学した。異文化理解をテーマに100人にインタビューする計画を立てて、実践してきた。もう1名は7月29日から9月27日までの61日間、アメリカに短期留学した。ニューヨークにダンス留学をし、世界トップレベルのダンサーの方に指導してもらうことにより、ダンスのスキルアップを目指し、渡米した。

#### 留学生の言葉（オーストラリア短期留学中者）

学校では同年代の生徒に対して異文化理解についてどのように受け止めているのか、また様々な職業に就く人々に労働環境についてのアンケートを合わせて100人に実施しました。生徒へのアンケートでは全て生徒が異文化理解に対して肯定的な意見を持っていて、Diversity「多様性」やmulticulturalism「多文化主義」を重んじていると回答しました。実際、現地では良い意味でオーストラリア人というものが分からなくなるほどたくさんの国の文化が混在していました。

帰国後は、高校一年生や中3生に対して留学の説明会で留学のよさなどを話してくれました。

今後も「トビタテ！留学 JAPAN」のような制度に応募したい生徒に呼びかけを継続していく。

#### (4) 短期留学生の受け入れ他

##### ①クリケット U19 サモア代表チーム受入れ

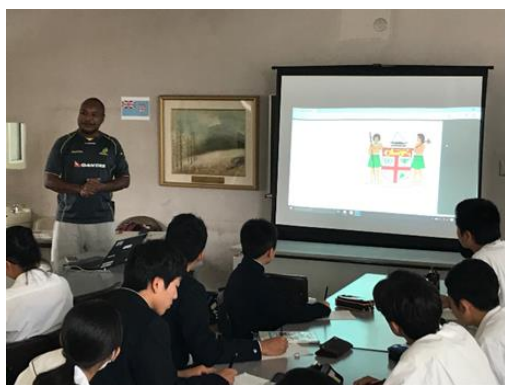
令和元（2019）年6月6日（木）、U19 クリケットワールドカップ東アジア太平洋予選への参加のため来日していたサモア代表チーム（8名）を招き交流会を開催しました。今回の企画は、昨年度1年次に「クリケットで佐野市を活性化」をテーマに課題研究に取り組んだ生徒たちの発案によるもので、今回日本クリケット協会からの依頼もあり実現した。

10:00	歓迎会（選択4教室） 生徒会、関係研究班、SGHクラブ等
	①学校長挨拶 ②生徒代表歓迎の言葉 ③佐野&佐高紹介
	④サモアチーム代表挨拶 ⑤記念写真
10:30	休憩
10:35	授業見学
11:00	交流会（高2研究班によるゲーム等）
11:45	クリケット体験（第2体育館）*希望者による
12:30	終了

##### ②佐野高校ラグビー部「気候変動」に関するセッション開催

令和元（2019）年5月20日（月）、フィジーの農業省シニア研究オフィサーのテキニ・ナキダキダ氏と農林水産省大臣官房政策課環境政策室課長補佐の長野暁子氏を本校に招き、気候変動に関する講演が開催された。本校ラグビー部は部活動の一部として、気候変動などを扱った環境教育にも力を入れており、その一環としてこの講演が実現した。

昨年の12月にラグビー部はCOP24（ポーランド）に参加しており、「アスリートが気候にどのようにかかわっていくか」というテーマに関して、高校生ができることを様々な角度から考えている。4月にも東京の「国連大学」において、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の室伏広治スポーツディレクターとともに気候変動とスポーツについて話し合うイベントにも参加し、活動の場を広げている。



フィジーの農業省 キニ・ナキダキダ氏



農林水産省 長野暁子氏